

さざなみ



「愛育茶譚」桑田立斎著

(嘉永6年)より

佐竹永海が図を描いた。19世紀日本の数少ない小児科書の一つである。桑田立斎(1811~1868)は、越後の村松家の生まれ。蘭医・坪井信道の弟子、1841年桑田玄真の養子となる。1842年江戸深川に小児科を開業。オランダ医師モーニケの伝えた牛痘種を幼児に接種したことは有名。生涯に7万人の子どもに接種した。『牛痘発蒙』の著者でもある。

滋賀医科大学附属図書館報

No.52

目次

2003年8月

情報化と図書館

マルチメディア副センター長 小森 優... 2

特集 図書館へようこそ

~ 図書館総合案内 ~

電子ジャーナル一覧..... 3

図書館map..... 4

文献データベース等一覧..... 6

図書館探訪

~ 京都大学医学図書館 ~ 7

図書館利用講習会(報告) 8

本学関係者寄贈図書..... 8

情報化と図書館

マルチメディア副センター長

小森 優



この度、「情報化と図書館」というお題のもとに図書館報の巻頭言を書くよう承った。これも図書館を増築したマルチメディアセンターの片隅に居候しているがための家賃の一部かと考え、日頃思うところを書き連ねることでご勘弁頂こうと思う。

世の中の情報化が図書館に及ぼした影響の最たるものはオンラインジャーナルであろう。文献検索のオンライン化もepoch makingであったが、早くからインターネット上で利用できるようになったため、むしろ図書館の外での利用が先行した感がある。それに較べて、オンラインジャーナルは出版社の個人顧客への対応の遅れもあって、個人が独自にオンライン購読するよりも大学が(図書館が)契約して学内で利用するという形の利用が進んでいる。オンラインジャーナルの利便性や購読費をめぐる出版社との確執など、これまでの冊子体ではありえなかったその功罪については、本報でも多くの先生方が書かれておられるので敢えて付け加えることは何もない。ここでは少々技術論に立ち戻って、コンピュータ上で文献、図書を読むこと、電子読書について再考したい。

電子読書のメリット、デメリットも読者の方々が日常経験されている通りであるが、メリットは読むことによって何を求めているかで異なってくる。最新の文献を素早く読みたい、専門書から必要な部分だけを読み出したい、教科書として端から端まで読み通したい、小説をゆっくり味わいながら読みたい、マニュアルとして読みたいなどなど、それぞれのシチュエーションで何が有難いかは異なる。例えば、デリバリーの早さ、検索性、関連事項との連携性(ハイパーリンク)、本の山と較べたときの省スペース性、文字や図表を自由に拡大・縮小できること、ものによっては無償で読めること、コンピュータ上の辞書を併用したり、自分の書き物への引用が容易にできることなどである。一方、短所の方は世の中の情報技術の普及レベルと読者の操作習熟度によって異なり、往々にして年齢にも依存することが多い。一般的に言われるのは、流し読みがしづらい、表示面積が小さく、解像度が粗いため総覧性が悪い、コンピュータやネットワークのある所でないと読めない、VDT障害、冊子体より高くて、操作が面倒で読むことに集中できない、コンピュータの起動を待たなければならぬ読みたいときにすぐ読めない、「本でないと読んだ気がしない」など、数多の欠点が指摘されている。心理効果は別として、技術的に改善されつつある部分や社会環境と共に変化してきている部分が多いことに気づかれたであろう。コンピュータの処理速度やネットワークの伝送速度は日に日に速くなって、「待たされる」ことは徐々に少なくなってきている。表示装置も大型化と高精細化が進み、ギザギザの見えない文字フォントや印刷と変わらぬ写真画質も珍しくない。こうした機器がそう高くない、少なくとも数年前の最低限の機器と同程度の費用で手にできる。一方では、ユビキタスコンピューティングという言葉で表されるように情報機器の小型化、軽量化、ワイヤレス化が進み、読書する場所への制約も随分緩和されてきている。しかし、どの技術もまだ十分ではなく、電子読書に対する自分のメリットと考え合わせて、どこかで妥協点を見出して使っているのが実情であろう。しかし最大の弱点は、電子化されている書籍、文献が全体のごく一部分でしかないということであろう。この点も新しい出版物に関しては急速に変化している。

自分の本棚に目をやるたびに、「このある本が全部電子化されていたなら、もう何年も、いや十年以上も開かれることがなくなっている本もキーワード検索で探してもう一度読み直してみるに違いないの」と思ってしまう。もっとも、以前それらの本を通読せず、頭の中にインデックスができないまま放置したせいだということは棚に置いての話だ。学生にとっての図書館の本も良く似た状況であろう。分類に従って、その書架の前に立ち、何冊かの本を手にして、目次や索引に目を通す。しかし、大部分の本にはアクセスするチャンスが無いまま学習の時期を終える。要求される知識量が爆発的に増え続けている現在、より効率の良い学習の方法論を手にしなければ、学習の質はより薄いものになり、「今の学生は以前より勉強をしていない」という指摘を否定できなくなる。現在の図書館は、研究者にはオンラインジャーナルである程度応えているが、学生に対してこうした方法論を提供できるかが問われているのではないだろうか。図書館が応えられなければ、今はまだ未成熟なインターネット上の知識アーカイブが将来図書館の役割を奪ってしまうことになるのではなかろうか。(こもり まさる)

図書館へようこそ～図書館総合案内～

滋賀医大で利用できる電子ジャーナル

(2003年7月現在)

この紙面で紹介したもの以外にも、BMJ、New England Journal of Medicineなど多数の電子ジャーナルを提供しています。以下のURL(フルテキストの読めるオンラインジャーナル全タイトルリスト)からご利用ください!

<http://www.shiga-med.ac.jp/library/serials/current/abclist.html>



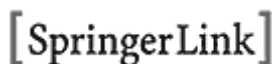
Science Direct(Elsevier社)ライフサイエンス分野を中心とした約400誌を提供。



ProQuest Health & Medical Complete 臨床系商業誌を中心に医学周辺領域・看護・衛生学など約300誌を収録した全文データベース。



Synergy(Blackwell社)医学・理工学分野の約330タイトルを提供。



Springer-LINK(Springer社)医学、生命科学、工学等の分野の約400タイトルを提供。



Nature
Natureの他、Nature Cell Biology、Nature Genetics、Nature Immunology、Nature Medicine、Nature Neuroscience、Nature Structural Biologyを提供。フルテキストのアクセスにはUser Name & Password(図書館オンラインジャーナルのページを参照)が必要。97年6月以降のフルテキストを提供。



Science 95年頃からのフルテキストを提供。



J-STAGE(科学技術振興事業団)国内学会誌約110誌を無料で提供。全文を見るのに、学会発行のID・パスワードが必要なタイトルもある。

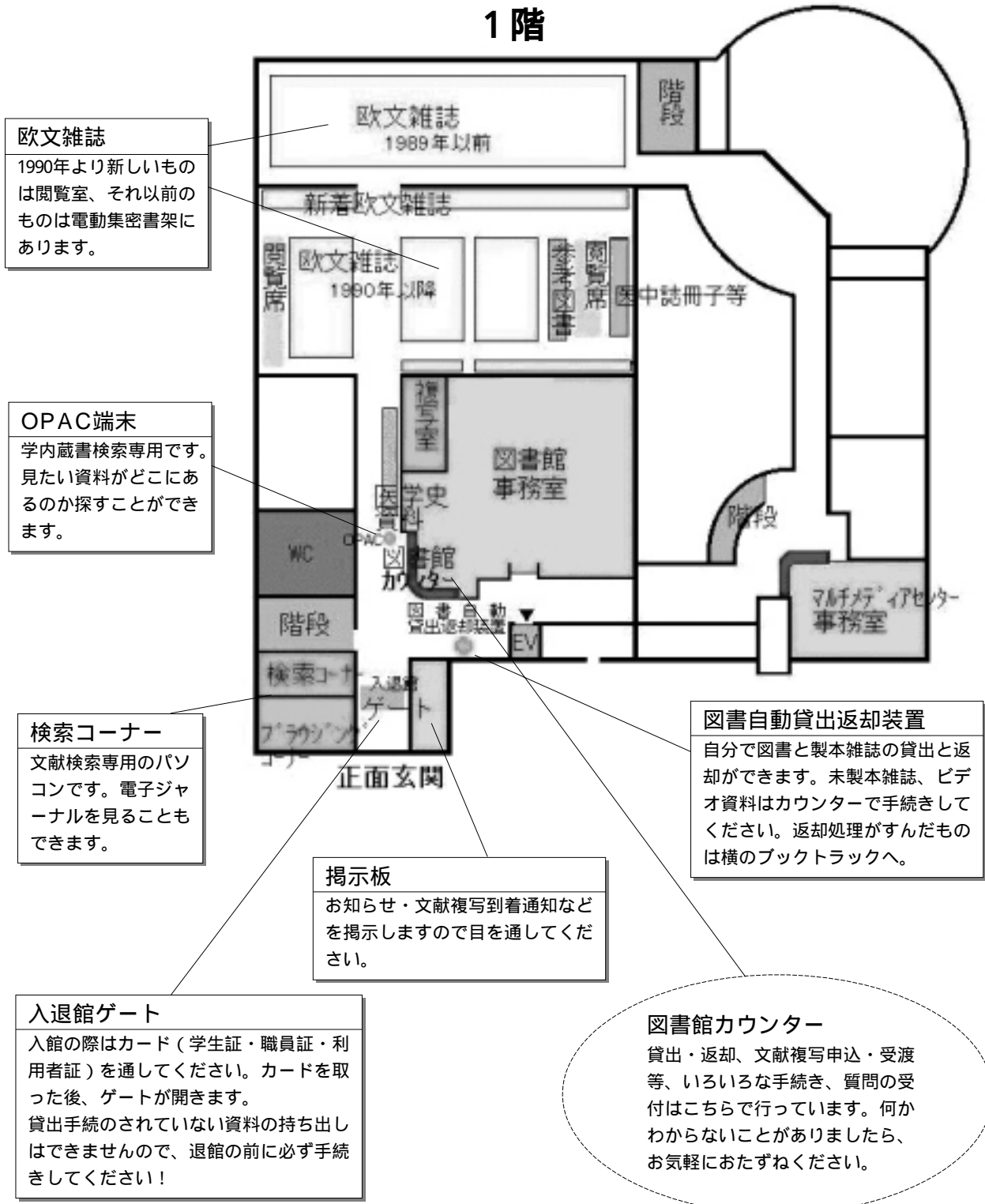


NACSIS-ELS(国立情報学研究所)国内学会誌を提供。目次まで無料。学内での全文の表示・印刷可能(一部有料)。

電子ジャーナル利用の注意事項 (違反した場合、全学的な利用停止になります。違法ダウンロードを行い、利用停止となった他機関の例があります。) 概ね次のような行為は禁止されています: 機械的な大量のダウンロードやプリントアウト。他者への複製配布、送信。個人の研究・教育以外の目的での利用。内容の改編。

図書館案内MAP

1階



欧文雑誌
1990年より新しいものは閲覧室、それ以前のは電動集密書架にあります。

OPAC端末
学内蔵書検索専用です。見たい資料がどこにあるのか探すことができます。

検索コーナー
文献検索専用のパソコンです。電子ジャーナルを見ることもできます。

入退館ゲート
入館の際はカード(学生証・職員証・利用者証)を通してください。カードを取った後、ゲートが開きます。貸出手続のされていない資料の持ち出しはできませんので、退館の前に必ず手続きしてください！

掲示版
お知らせ・文献複写到着通知などを掲示しますので目を通してください。

図書自動貸出返却装置
自分で図書と製本雑誌の貸出と返却ができます。未製本雑誌、ビデオ資料はカウンターで手続きしてください。返却処理がすんだものは横のブックトラックへ。

図書館カウンター
貸出・返却、文献複写申込・受渡等、いろいろな手続き、質問の受付はこちらで行っています。何かわからないことがありましたら、お気軽におたずねください。

図書館利用時は、必ずカード(学生証・職員証・利用者証)を携行してください

2階

和雑誌
1990年より新しいものは閲覧室、それ以前のは電動集密書架にあります。

専門図書
医学生物学関係の図書です。ラベルの最上段はWかQから始まるものになっています。

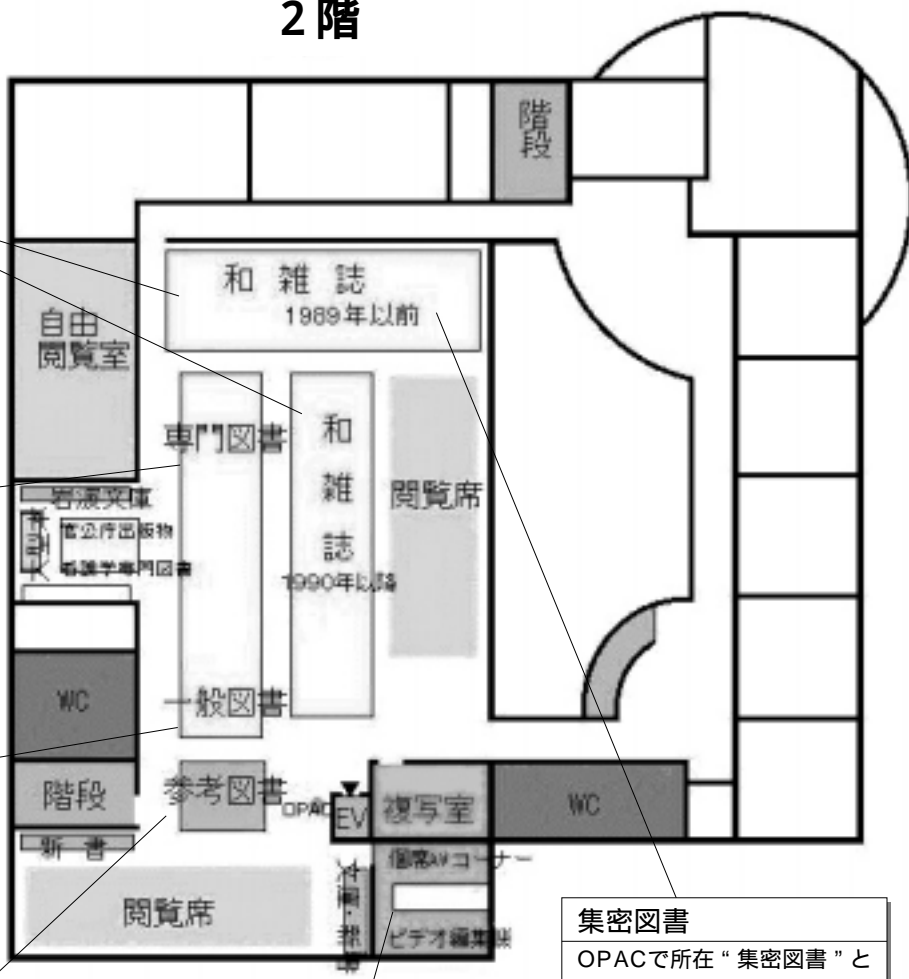
一般図書
NDC（日本十進分類法）で分類された図書です。ラベルの最上段が数字になっています。意外と(?)ベストセラー本があったりします。穴場かも。

参考図書
この書架には語学辞典、団体名鑑等、一般参考図書が並んでいます。医学、生物学関係の参考図書は1階にあります。館外貸出はできませんので、館内をご利用ください。

貸出冊数・期間
図書・製本雑誌含めて
5冊以内
1週間
未製本雑誌
10冊以内
3日間
図書に関しては、期限内であれば1回更新できます。

視聴覚資料利用室
ビデオ資料の閲覧などができます。カウンターで利用の申し込みをしてください。

開館時間 月～金 9:00～20:00
土 13:00～17:00



集密図書
OPACで所在“集密図書”と表示される図書はこちらにあります。

返却期限を守りましょう!

図書館へようこそ～図書館総合案内～

滋賀医大で利用できる文献データベース等

(2003年7月現在)

O V I D

MEDLINE PubMedより高度な検索が可能。EBMRとのリンク機能あり。1966年から収録。

CINAHL 看護文献全般についてのデータベース。1982年から収録。

EBMR (Evidence -Based Medicine Reviews) 科学的根拠に基づく医療 (EBM) のためのデータベース。Ovid-MEDLINEとの相互リンク機能が特徴。



米国立医学図書館 (NLM) がインターネット上で提供している無料の医学文献データベース。MEDLINEの全文献に加えて、掲載直前の文献 (PreMEDLINE) 、分子生物情報も収録。約4,300誌を収録。1966年から収録。



国内医学文献データベース。収録対象誌は、国内で発行される医学、歯学、薬学、及び関連領域の約2,400誌。1983年から収録。



国立情報学研究所提供の情報検索サービス。雑誌記事索引などのデータベースを提供。機関別定額制の導入により、料金を気にすることなく、学内の端末からどこからでも利用可能になりました (一部データベースを除く)。



Current Contents - Desktop FTP Life Science/Clinical Medicine
臨床医学関連の雑誌約1130誌の目次情報を収録したClinical Medicine Edition
と生命科学関連の雑誌1360誌の目次情報を収録したLife Science Editionを提供。
タイトルワードや著者名から文献を検索できるデータベース。 附属図書館検索コーナーの専用端末のみで利用できます。



Journal Citation Reports(JCR) Science ed.
引用回数により、雑誌の重要度・影響度を示すインパクトファクター等を収録。
1992年版からカウンターにマイクロフィッシュ版及び冊子があります。

医中誌、MEDLINE、PubMedで検索した文献の複写を依頼する場合……

♪♪♪滋賀医大にない文献は他大学に複写を依頼できます♪♪♪

メールでの依頼：医中誌・MEDLINE・PubMedの検索結果に申込項目を追加するだけで依頼ができます (学内教職員・大学院生・研究生のみ)。詳細は以下のURLにて。

<http://www.shiga-med.ac.jp/library/copy/index.htm>

文献複写申込書：医中誌・MEDLINE・PubMedの文献番号を記入してください。



～ 京都大学医学図書館 ～



京都大学のある百万遍界隈は、学生の街らしく、さすがにアカデミックな雰囲気漂っています。医学研究科・医学部キャンパスは、京都大学の南部地区、附属病院の北隣にあります。正門に入り、すぐ右手に見えるグレーの建物が医学図書館です。お隣のレンガ造りの建物は明治34年に建てられたもので、歴史的保存建物でありながら、現在も医学図書館の第二書庫として活用されています。

図書館は三階建ての建物で、奥の第一書庫は四層構造になっています。図書館の入り口を入ると、左手に新聞や目録カードなどが置かれたスペース

があり、右手にカウンターが見えます。1階の閲覧室には雑誌や参考図書の書架が並んでいます。フロアの真ん中には、最新新着雑誌だけを並べた書架が設置されており、雑誌の最新号が利用者の手に取りやすいように並べられています。検索用のパソコンも設置され、MEDLINEや医中誌Web版、Web of Scienceなどの多様なデータベースを検索できる環境が整えられています。2階には1980年以降の単行書や白書・統計類、辞典類などが排架されています。医師国家試験対策関係資料やシラバス関連図書を備えた軽読書室や、グループでの学習に利用できるグループ学習室などもあり、学生に大変人気だそうです。3階には、視聴覚資料が利用できる個人閲覧室が用意されています。



各研究室が所蔵していた雑誌を集めてつくられたということで、古くからの文献が1カ所に集められているという利点に加え、最近では図書の収集にも力を入れ、講習会を多く開催するなど、利用者にとってますます重要で、かつ利用しやすい場となっているようです。その一方で、豊富なデータベースや電子ジャーナルを提供し、充実したホームページでその利用をサポートしておられ、直接来館することが困難な利用者にも多様なサービスを提供されています。また、トライアルの際には必ずアンケートを実施してその結果を公表し反映するといった、一

方通行でない、コミュニケーションに基づいたサービスを展開されています。

皆さんも是非一度足を運ぶorホームページをご覧になってはいかがでしょうか？

京都大学医学図書館URL <http://www.lib.med.kyoto-u.ac.jp/>

附属図書館利用講習会(報告) (平成15年2月～平成15年7月)

- 4月1日 新規採用職員への図書館案内
 2日 大学院修士課程看護学専攻 図書館オリエンテーション
 8日 新入生オリエンテーション
 5月7日 平成15年度大学院修士課程看護学専攻第1年次生文献検索ガイダンス
 6月23日 平成15年度医学総合研究特論(大学院特別講義)文献検索に関するオリエンテーション

寄贈図書紹介

書名	出版社	出版年	寄贈者
内科学 第8版	朝倉書店	2003	木之下正彦名誉教授 部分執筆
新臨床内科学 第3版	医学書院	2003	吉川隆一学長 部分執筆
糖尿病性腎症の食品交換表 第2版	日本糖尿病協会	2003	内科学第3講座
Diabetes Frontier Vol.14 No.1	メディカルレビュー社	2003	"
動脈硬化性疾患診療ガイドライン2002年版	日本動脈硬化学会	2002	"
Nursing Mookシリーズ	学研		平成14年度看護学科卒業生
Nursing Selectionシリーズ	学研		"
Oxygen and Life	Elsevier	2002	野崎光洋名誉教授 編者
イヤートート 2004	メディックメディア	2003	馬場忠雄副学長
カラー人体解剖学	西村書店	2003	新井良八教授 訳者
アトピー性皮膚炎の臨床(7冊)	金芳堂	2003	上原正巳名誉教授 著者
改訂新版イラスト免疫学	メジカルビュー社	1990	柏木厚典教授
インフォームドコンセントのための心臓・血管病 アトラス 第2版	トリアエイヨー	2001	"
内科学書 改訂第5版 全2冊	中山書店	1999	上島弘嗣教授 部分執筆
イタイタイ病ならびにカドミウム関連研究論文集	富山医科薬科大学医学部 公衆衛生学教室	2002	"
アメリカの医学教育	日本評論社	1996	吉川隆一学長
"It's My Challenge"ペンシルベニア大学 医学部留学奮戦記	篠原出版新社	2000	"
実地医家のための糖尿病合併症 診断・治療ハンドブック	エルゼビア・ジャパン	2003	安田齋助教授 部分執筆
メディカルスタッフのための 糖尿病性腎症のアプローチ	文光堂	2001	" "
糖尿病性腎症のすべて	東京医学社	2001	" "
エキスパートナーズ	へるす出版	2003	野島良子教授 編集